

これからの学校施設の維持管理について

令和 2 年 1 2 月 1 5 日
練馬区教育委員会事務局
教育振興部教育施策課・学校施設課

1 学校施設の現状と課題

児童生徒数の減少

- ・ 昭和50年代と比べると、児童生徒数は約6割に減少
- ・ 年少人口は今後長期的に微減

学校施設の老朽化

- ・ 区立施設の延床面積の5割超が学校施設
- ・ 築50年以上経過した学校施設が約半数以上

学校施設の改築・改修にかかる経費

- ・ 1校あたりの改築費用は全部改築（校舎・体育館・プール等）で約37億円

児童生徒数がピーク時に比べ大きく減少しているなか、学校施設は老朽化してきており、将来を見据え、子どもたちの教育環境を確保していくためには、経費の負担を軽減しつつ、学校施設を適切に管理することが求められている。

2 今後の学校改築の考え方

1

年間2校ずつ計画的に改築

コンクリートの状況等により可能な施設については長寿命化（80年利用）改修を行いつつ
年間概ね2校ずつ改築に着手

2

1校あたりの改築費用は約37億円

計画的に改築を行っていく必要があるが、
1校あたりの改築費用は、全部改築（校舎・
体育館・プール等）で約37億円と
大規模な費用が必要

将来にわたって施設の安全性を確保しつつ、すべての学校で良好な教育環境を提供していくために、
学校改築における「標準化」を検討

3 標準化とは

検討の方向性

- どの学校も同水準の教育環境を確保したうえで、今後の学校施設に求められる機能を充実
- 教育環境の確保を前提に、持続可能な財政運営の観点から 1 校あたりの費用を抑制するため、可能な限りシンプルでコンパクトな施設仕様を検討

【基本的な考え方】

- ・ 普通教室 1 教室の基準面積を設定し、職員室等の管理室、理科室等の特別教室は普通教室の面積を基本単位として規格化
- ・ 専門科目に対応するための特別教室は現在の使用状況を踏まえて、必要な科目と教室数を精査
- ・ 多目的室や会議室などについては、一定の面積制限等を行いつつ、各学校の教育活動の特色等に基づき、柔軟に対応

効果

- 各学校の特徴を尊重しつつ、基本的な室数・面積・設え（仕様）を標準化することにより、設計業務の効率化や期間の短縮、コストの低減等の効果が見込まれる。

4 標準化モデル例（普通教室 小学校）



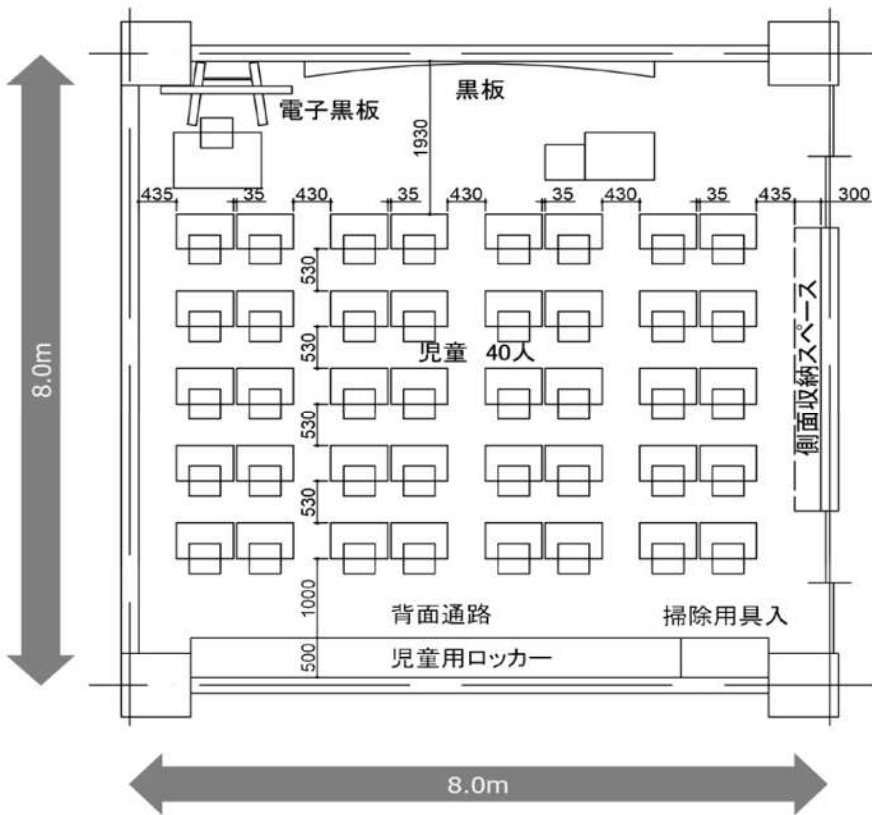
子どもたちの動線、机の規格、ICT機器の設置場所等を考慮し、教室の面積を設定

机の規格【参考】

旧JIS規格：縦40cm×横60cm（現行）

新JIS規格：縦45cm×横65cm

教室の面積は、区の現状や他自治体の状況等を踏まえ、64m²（縦8m×横8m）を基本に学校敷地の形状等を踏まえ決定



レイアウトのイメージ
新JIS規格の机を設置した場合

4 標準化モデル例（普通教室 中学校）



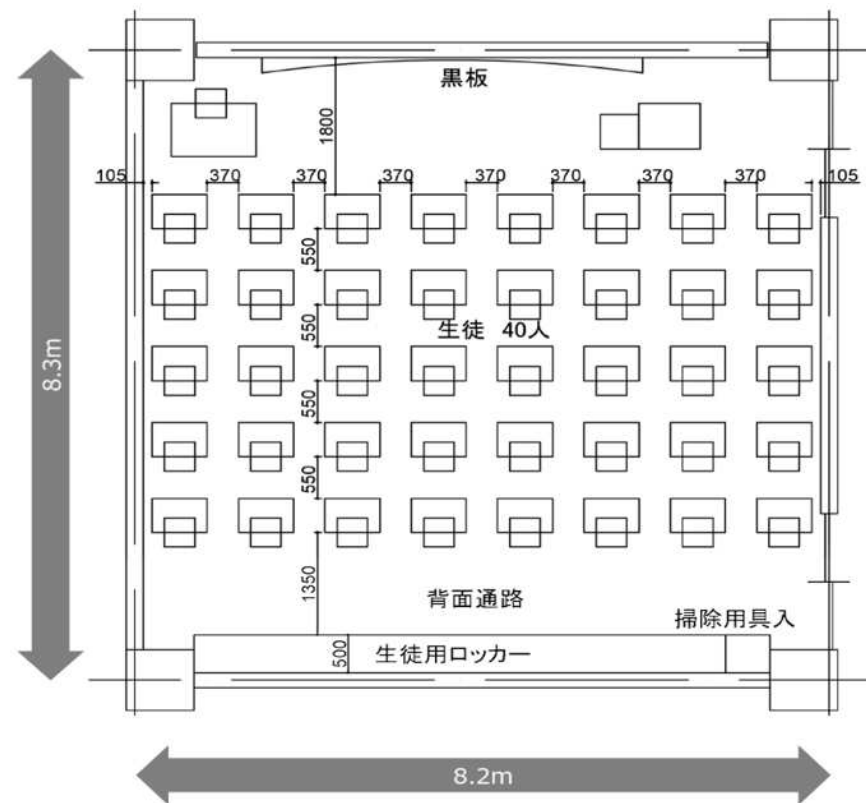
子どもたちの動線、机の規格、ICT機器の設置場所等を考慮し、教室の面積を設定

机の規格【参考】

旧JIS規格：縦40cm × 横60cm（現行）

新JIS規格：縦45cm × 横65cm

教室の面積は、区の現状や他自治体の状況等を踏まえ、68㎡（縦8.2m × 横8.3m）を基本に学校敷地の形状等を踏まえ決定



レイアウトのイメージ
新JIS規格の机を設置した場合

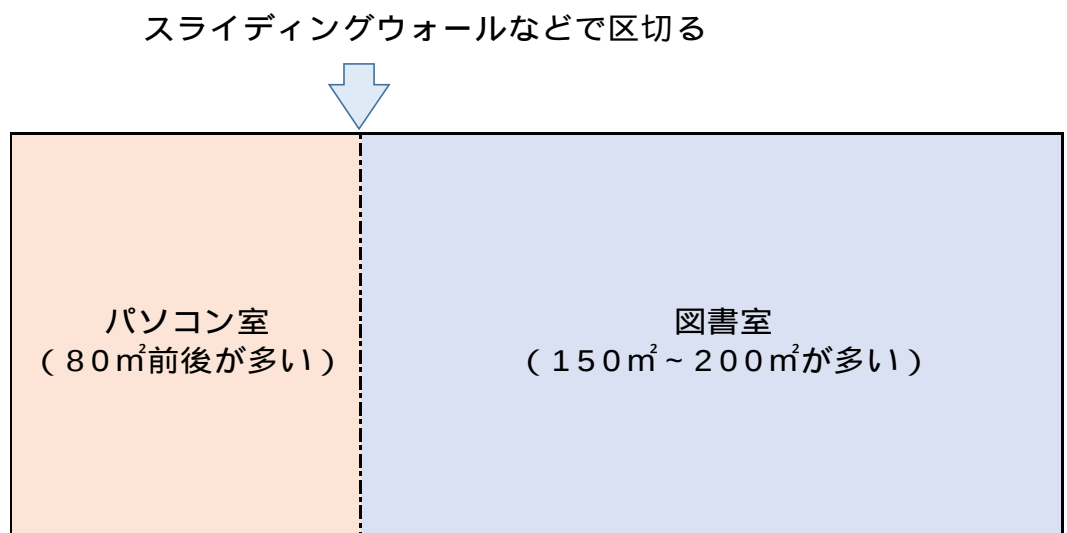
4 標準化モデル例（図書室【メディアセンター】）



図書室については、既存の書籍だけでなく、タブレット等を併用した調べ学習の場としてメディアセンターとして施設整備を実施



タブレット導入後の図書室の利用イメージ



【参考】これまでの改築校における一般的なレイアウト

4 標準化モデル例（多目的室・会議室等）



区の現状や他自治体の状況等を踏まえ、多目的室・会議室等については、一定の延床面積の範囲内で各校の裁量において、部屋数や活用方法を決定



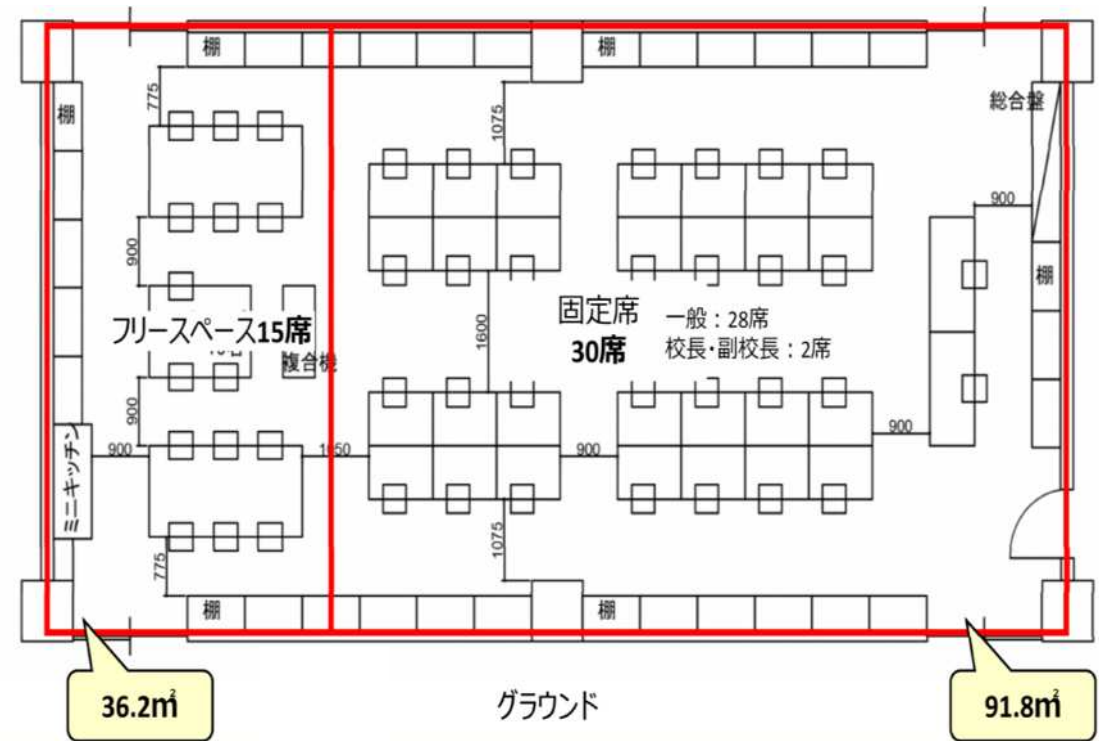
多目的室のイメージ（写真）

4 標準化モデル例（職員室）

✓ 面積を一律に設定するのではなく、教職員の人数に応じて変動して設定

✓ 設定に当たっては、教職員のパソコンの使用頻度等に基づき固定席（ $3.06\text{m}^2/\text{席}$ 席）、フリースペース（ $2.41\text{m}^2/\text{席}$ 席）の席数を算定し、職員室の面積を決定

✓ 席の数や配置は面積の範囲内において、学校との調整により決定



固定席30席、フリースペース15席の場合のレイアウト

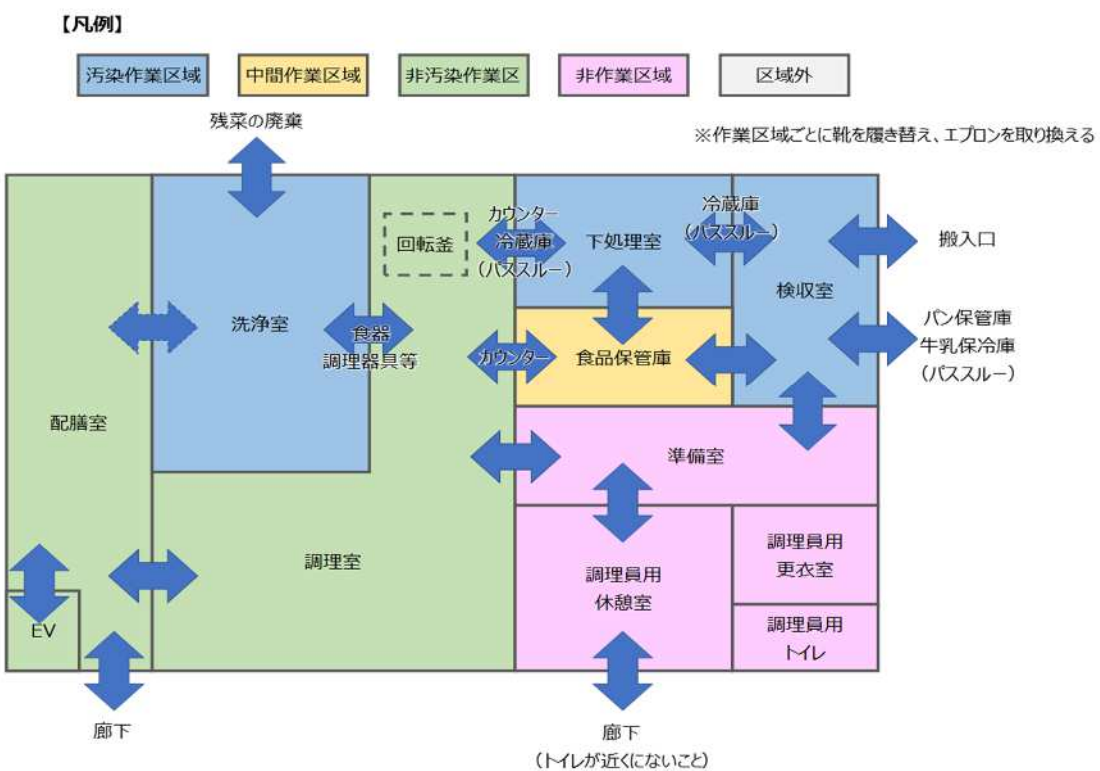
4 標準化モデル例（給食室）



面積を一律に設定するのではなく、児童数・教職員の人数に応じて変動して設定



例えば、児童数が630人（1クラス35人の18学級）の学校においては、食数を730食（630食+100食）と想定し、730食を提供できるような面積を確保



レイアウトのイメージ

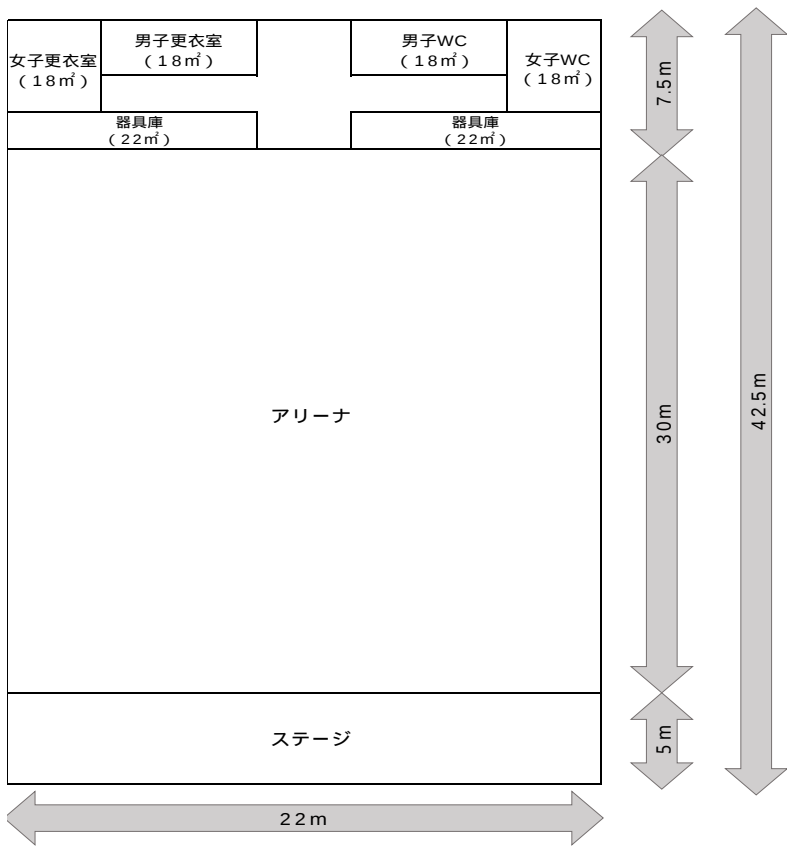
4 標準化モデル例（体育館）



アリーナについては、バスケット・バレーボールの練習2面分、バドミントンの試合4面分の面積を確保するなど、授業・部活動や地域開放等を想定し、面積を小学校で約940㎡、中学校で約1,100㎡に設定



アリーナに加えて、器具庫・トイレ・更衣室を設置
中学校は体育準備室も設置



レイアウト（小学校）のイメージ